

Lesson 2

れきしじょう じんぶつ
歴史上の人物：当山久三

Kyuzo Toyama**Learning Outcomes**

Students will be able to:

1. discuss and explain about Kyuzo Toyama, so-called “Father of Okinawa Overseas Emigration,” by citing an incident or a case to reflect his character and personality traits.
2. point out each case showing his strong conviction, leadership, stubbornness, and sense of justice, after studying the different stages of his life including the childhood, the youth, and the period he served as Chief Administrator of Kin Village.
3. explain, by citing a single example, how Kyuzo Toyama was able to overcome the many hardships he had to face in order to realize his goals and accomplish the emigration of Okinawan people to Hawaii. (Point out more than one of the many incidents.)

とうやま きゅうぞう でん
『当山久三伝』¹

1. 少年時代

きゅうぞう めいじがねん がつ おきなわ きんそん げんざい きんちょう
 久三は、明治元年11月、沖縄の金武村（現在の金武町）
 で生まれました。久三の父は、「大屋のうなじぬわーた（う
 なぎのお腹）」と言われるほど、おとなしく、やわ せいかく 性格の
 人でした。反対に、母は、たいへん 気性の激しい人でした。
 久三は五人兄弟で、姉が一人、弟が二人、妹が一人いまし
 た。生家は、大屋（うふや）と呼ばれる家で、地方の名家で
 した。しかし、久三が生まれた頃、家はひじょうに貧しく、家屋だけは、昔の名残りを
 とどめて、堂々として立派でした。



いみん しょうぞう
 移民の父・当山久三の肖像

（ハワイ沖縄センター）

¹ 以下は金武町教育委員会による『当山久三 小伝』を参照、要約したものである。

子供の頃の久三は、とても負けん気が強く、いつも一番になりたがったといいます。山に薪を取りに行くと、誰よりも早く、誰よりもたくさん薪をあつめました。草刈りでも一番だったし、馬乗りも上手で、走ってきた馬にとび乗って、まわりの者を驚かせたりしました。

2. 青年時代

当時の小学校は四年制でしたが、久三はひじょうに成績がよかったので、二年間で卒業しました。そして、明治17年に、師範学校に入学しました。師範学校での久三の成績は、あまりよくありませんでした。彼は、学校の勉強よりも、教科書にのっていない新しい知識や、沖縄の社会問題を研究することに没頭していました。当時の風習として、師範学校の学生たちは、まげをしていましたが、明治21年、文明開化の先頭に立って、全員がまげを切りました。翌年の22年には、制服を着るようになりました。明治の世の中は、めまぐるしく変わり、久三は、これからの新しい時代に、自分が何をすべきか考えていました。そのころ、初恋を経験しましたが、失恋してしまいました。彼は、その後まもなく結婚して、22年には、長男が生まれました。23年に、彼は師範学校を卒業しました。

3. 教員時代

久三は小学校の先生になりました。先生の給料は、月9円で、とてもよかったです。そのころ、沖縄の人が先生になることは難しく、沖縄には、他の県から来た先生がたくさんいました。また、役人や警察も、他の県から来た人が多かったのです。この人たちの多くが、沖縄の人々を馬鹿にしたり、野蛮人あつかいしたりしていました。正義感の強い久三は、そのことが我慢できず、はっきりと抗議しました。そのため、他の県出身の先生や役人は、彼のことをよく思いませんでした。

久三は、明治26年に金武小学校の校長になりました。彼は、生徒や村の人々に、ひじょうに尊敬されていました。しかし、沖縄の学校では、沖縄の人々が軽視されていて、他の県から来た先生や役人が権力をもっていました。久三は、そんな状況に耐えられ

ませんでした。ある日、郡長に会いに行き、そのことを強く抗議しました。そしてとうとう、校長を辞めてしまいました。

4. 村の改革

校長を辞めた久三は、村の総代になりました。彼は、つぎつぎに村の改革を計画し、実行していきました。彼のおこなった村の改革は、次のようなものでした。

1. 金武小学校の敷地の決定
2. 男の断髪と女の入れ墨の廃止
3. 迷信の打破と祭事の簡素化
4. 馬酒の廃止
5. 男女モーアシビーの廃止
6. ンタバルの排水工事
7. 河流の変更による耕作地の拡大

久三は、たくさんの改革をおこないましたが、どれも簡単ではありませんでした。なかでも、金武小学校の敷地の決定は難しいものでした。その場所は森で、ウタキバルという御願所（ウガンジュ）がありました。その森から木を一本でも切ると、神のたたりがあるとあって、村の人たちは怖がっていました。しかし、久三は、「こんな大きな御願所はいらない。神の子である子供たちの教育の場にしたほうがいい。神のたたりは、私だけで受けよう。」と言って、なたで左縄（ヒザイナー）を真っ二つに切り落としました。これを見て、村の人々も、久三といっしょに木を切り倒しはじめました。土地の半分は小学校に、のこりの半分は耕作地に使われて、信仰深い人々のために、小さな御願所が残されました。

久三は村のために一生懸命働きました。しかし、彼に反対する者や、ねたむ者がでてきて、久三は、友人を失ったり、暴漢におそわれたりしました。そんなことがあってから、彼は山の中の祖末な小屋に一人で住み、土地の開墾をはじめました。そして、仕事

お
が終わってから、夜おそくまで本を読んで勉強しました。めいじ
明治29年、彼は、沖縄の
しゃかいもんだい かいけつ
社会問題を解決するために、もっと勉強したいと思い、東京へ行く決心をしました。2
さい
9歳のときでした。

5. 東京時代

東京で、久三は、ほうろう
放浪の生活をして、公園のベンチで寝ることもありました。ある日、
ふるほんや しょくみんろん いっさつ
彼は古本屋で「植民論」という一冊の本を見つけました。ずっと植民問題を考えていた
彼は、もっていたお金を全部使って、その本を買いました。そして、つめ かぜ
冷たい冬の風がふ
く公園のベンチで、その本をむさぼり読んだのでした。

やがて、久三は、東京の小学校の先生として採用され、まもなく とうちよう
校長になりました。
そのころ、ただ一人の沖縄出身の高等官、しゃはなのぼる であ
謝花昇と出会い、友人になりました。ふた
り、みんぞく じゆう かいほう
沖縄民族の自由と解放のために、せいし とも たたか ちか
生死を共にして闘うことを誓って、明治31年
の春、沖縄に帰りました。彼らは、じゆうみんけんうんどう
沖縄で自由民権運動をはじめました。彼らは、沖縄
の植民地のような政策を批判し、民族解放の手段として、沖縄からのかいがいいみん けいかく
海外移民を計画し
はじめました。



当山久三像（沖縄県金武町）

6. ハワイ移民

久三と謝花昇は、海外移民を実現させるため、沖縄各地
で、さんどうしゃ つの
賛同者を募りました。沖縄県の知事に妨害されたり、
ハワイへのとうしきん
渡航資金が、なかなかあつ
集まらなかったり、移
民の実現までには、多くのくろう
苦労がありました。はじめは、
移民をきぼう
希望する者はすく
少なかつたけれど、久三はあきら
めま
せんでした。

ついに、明治32年12月5日、いっか さいしよ
沖縄最初のハワイ移民30人が、沖縄のな ほうこう
那覇港から、
しゅつぱつ
ハワイへ出発しました。にゆうこく けんえき
入国まえの検疫で、4人がふ ぎょうかく
不合格だったため、26人がじようりく
上陸
しました。彼らが、その後沖縄の人々が海外で発展していく 礎
いしずえ
となったのです。

久三は、さらに、次の移民を計画しました。そのころ、第1回移民でハワイへ渡った6人が、沖縄に帰ってきました。彼らは、ハワイで稼いだお金で、田畑を買ったり、立派な家を建てたりしました。これを見た多くの人々が、移民を希望するようになりました。明治36年、第2回ハワイ移民が出発しました。このとき建てられた石碑には、「いざ行かん、われらの家は五大州、誠一つの金武世界石」という、久三の歌が刻まれています。これ以後、沖縄から、ハワイ、北米、フィリピン、メキシコ、南米へ、多くの人々が移民していきました。

7. 晩年の久三

明治42年に、沖縄で、初めて県の議員の選挙がおこなわれ、久三は、最高得点で当選しました。しかし、そのころから、彼は重い病気になり、翌年、他界しました。43歳の若さでした。久三の墓はカリフォルニアにありましたが、2000年に移民100周年を記念してハワイ州のミリラニメモリアルパークに建てられました。



当山久三像
(ハワイ沖縄センター)



Tasks & Discussions

- Let's visit the Issei Garden in the Hawaii Okinawa Center. Kyuzo Toyama arrived in Hawaii in 1903, leading the second group of emigrants from Okinawa. What are the words that are engraved on the statue of Kyuzo Toyama and his stone monument? Compare this statue with the one standing in Yuhi no Mori in Kin village, Okinawa. What differences do you notice? Discuss this, including your personal thoughts and impressions.

(ハワイ沖縄センター内の「一世ガーデン」を訪ねてみましょう。第2回沖縄移民を引率して当山久三がハワイに来たのは1903年(明治36年)でした。ガーデン内の久三像にはどんな言葉がきざまれていますか。また、沖縄県金武町の「雄飛の森」に立っている久三の銅像と比較して、どんな違いがありますか。各自の感想もふくめて、述べてください。)

- Think about the various difficulties Kyuzo had to overcome and consider what he was able to accomplish. The Okinawan community in Hawaii has a history of over 100 years. Write a brief report which includes a personal essay on how the Okinawan community has evolved.

(当山久三が成し遂げたハワイ移民の、その後の成果について考えてみましょう。1900年の第一回移民から現代までの100年余のハワイ沖縄コミュニティーが、どのように発展してきたかを、感想をふくめて小レポートにまとめてみましょう。)



沖縄からのハワイ移民を記念する石碑

(ハワイ沖縄センター)